「マイ・ストーリー」を描き、それを語れる力が、これからの大学入試で希望進路を実現するために必要とされることを検証し、そうした力を生徒に育む教師の指導や支援のあり方・方法を、実践事例を通じてお伝えしたVIEWnext高校版2021年8月号・特集はこちら▶

マイ・ストーリーを語れる生徒を育む進路指導

「マイ・ストーリー」とは、生徒一人ひとりの「自分のこれまでの学びや活動、その成果や結果に至るまでのプロセス、これからの展望」を指す。
総合型選抜や学校推薦型選抜（以下、推薦型選抜）を始めとするこれからの大学入試に向けて、「マイ・ストーリー」を描き、それを語れる力を生徒に育む実践事例を紹介する。

1年次

マイ・ストーリーを語るための土台づくり

「自分を知る」探究学習を通して自己肯定感を育み、進路を拓く

宮崎県立宮崎東高校　定時制課程夜間部

マイ・ストーリー 1年次の課題

- 中学校までに様々な問題に直面してきた生徒の自己肯定感を高め、社会性を育む
- 進路目標を具体化していくために、自分の興味のあるテーマを掘り下げ、さらにその視野を社会、進路へと広げていく

「総合的な探究の時間」で生きがいを見つけさせる

宮崎県立宮崎東高校定時制課程夜間部には、過去に不登校を経験した生徒や、義務教育段階での基礎学力が身についていない生徒、人前で話したり、他者と協働したりすることが苦手な生徒が少なからず入学してくる。同校の教師たちにとって、生徒が4年間の教育課程を無事に修了することが最大の目標であり、進路指導までは十分手をかけられず、かつては大半の卒業生の進路が、在学中のアルバイトの継続という時期もあったという。

そうした生徒たちが、「総合的な探究の時間」を通じて「生きがい」を見つけ、納得いく進路を切り拓く力を身につける取り組みが始まっている。西山正三（まさみ）先生は、「総合的な探究の時間」を、生徒に不足している経験を取り戻し、「マイ・ストーリー」を語れるようになるための土台を築く場だと説明する。

「不登校などの事情によって、生徒は自己肯定感が十分に育まれておらず、実社会に対する知識も不足しています。『総合的な探究の時間』を通して、同級生や様々な社会人と接し、実社会に触れ、自分を掘り下げる中で、生きがいを見つけさせたいと考えました」

探究学習のサイクルを回す中で、大きく成長する生徒たち

「総合的な探究の時間」は週1コマで、4年間を通じて実施される（図）。すべての年次で、①課題の設定から、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現までの探究学習のサイクルが回されている。

1年次の「自分を知る」は、4年間の探究学習のスタートとして、生徒にとって特に重要な活動であり、特に①の課題の設定に力を割く。前期は、マインドマップなどを使って自己分析を行い、興味・関心を掘り下げる。

「最初は自己分析をほとんど書けない生徒もいますが、何か1つでも書けていればそれを褒め、もう1つ何か書いてみようと声をかけます。『1つしか書けていない』ではなく、『1つ書けている』ことを認めることで、この時間は安心・安全が保証されていることを生徒は理解します。その後の活動において生徒が自分のことを表現していくためにも、教師が生徒に対して寛容であることが重要です」

答えが1つとは限らないテーマについて語り合う「哲学対話（＊1）」にも取り組む。

「最初から全員が活発に意見を言うわけではありませんが、自由に自分の考えを語ってよい場であることが分かると、生徒たちは次第に話をし始め、互いに心を開いていきます。他者の意見を聞いたり、自分の意見を聞いてもらったりする中で充実感を味わい、いろい

＊1　哲学対話については、『VIEW21』高校版2020年度4月号・特集「『あり方・生き方』を考える」P.26～27をご覧ください。
＊2　ベネッセのアセスメント「進路マップ」の1つで、義務教育範囲も含めた基礎学力を測るマーク式テスト。

宮崎県立宮崎東高校 定時制課程夜間部の探究学習

1年次 自分を知る

自分の興味・関心を探り、自分について理解を深めることを目標とする。思考ツールを使った自己分析や、哲学対話などを経て、自分の興味のあるテーマについての考察をスライドにまとめて発表する。

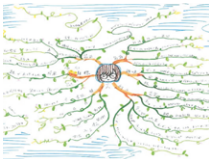
2・3年次 社会を知る

「自分」から「社会」へと視野を外に広げ、自由にテーマを設定し、探究学習に取り組む。

3・4年次 進路を知る

自分の興味・関心などを踏まえて、今後の進路を考える。面接や志望理由書の指導も行う。

マンダラートやマインドマップで自分を掘り下げる



1学期の探究学習の多くは、思考ツールを使った自己分析に充てる。じっくりと自分と向き合わせることで、少しずつ自分の興味・関心を言語化できるようになる。

専門家を招いた哲学対話を開催

東京大学大学院総合文化研究科の梶谷真司教授をファシリテーターに招いた哲学対話を例年実施。22年度はオンラインで3コマ、対面で1コマ開催した。

様々な外部講師と語り合う機会をつくる

探究学習の専門家など、多様な外部講師を招いて講演会を実施。生徒が自身の探究テーマについて講師に直接相談できる時間も設けた。

※学校資料を基に編集部で作成。

ろな考えに触れて多様性に気づく中で、社会性が養われます。そうした経験は、本校の生徒には特に価値があると思っています」

以上のような活動によって、自分や他者に向き合う準備をした生徒たちは、5W2H（「When（いつ）」「Where（どこで）」「Who（誰が）」「What（何を）」「Why（なぜ）」「How（どのように）」「How Much（いくらで）」）の視点から、自分の興味のあるテーマについての考察をスライドにまとめ、発表し、2年次以降の「社会を知る」、「進路を知る」活動へとつなげていく。

「総合的な探究の時間」を4年間経験した生徒が、2022年度末に卒業した。卒業生が高校生活での学びを振り返り、在校生に語る講演では、「進路選択で迷った時に、マンダラートを使って自分の考えを整理した」「自分の得意を自己分析で見つけ、それを生かせる資格を取得し、就職につなげた」などと、探究学習が進路選択に生かせたことを話した生徒もいたという。

「資格の取得に挑戦する生徒が増えたのは、自分の内面に向き合い、将来を考え、今すべきことに取り組む力が身についたからでしょう。22年度の卒業生には、アルバイトを継続する者はほとんどおらず、それぞれ就職先や進学先を決めていました。ただ卒業するだけの学校から、次の進路に踏み出せる学校になったのではないかと思っています」

同校では、探究学習を取り入れた学年で、基礎力診断テスト（＊2）の国語の成績が向上した。探究学習におけるまとめ・表現の経験が効果として表れたと、西山先生は考えている。

「どの生徒も持っている『伸びしろ』がいかに大きなものであるかを、探究学習が改めて私に教えてくれました」

2学年担任
西山正三
にしやま・まさみ

教職歴24年。同校に赴任して4年目。理科。前任の宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校で探究学習に長くかかわる。

学校概要

◎設立　1974（昭和49）年
◎形態　定時制（昼間・夜間）、通信制／普通科／共学
◎生徒数　1学年約20人（定時制夜間）
◎2021年度進路実績（現役のみ）　4年制大には、千葉商科大、南九州大、宮崎産業経営大に4人が合格。短大・専門学校進学7人。就職4人。

ウェブオリジナル記事では、1年次の哲学対話の様子や、進路の目標を見つけた生徒のエピソードなどを紹介！（右記の2次元コードを読み込み、またはクリックしてアクセス）

VIEWnext ONLINE ▶

※プロフィールは、2023年3月時点のものです。